

ドキドキわくわく あたらしい本 えほん

2024.10

こぶたのルーファスがっこうへいく

キム・T. グリスウェル ぶん
バレリー・ゴルバチョフ え
くまがいじゅんこ やく
サイエンティスト社

こぶたのルーファスはまいにちおきにいりのほんをひらいて、ページをめくりますが、もじはよめません。ルーファスはがっこうへ行って、よみかたをならおうとおもいました。でもこうちょうせんせい「こぶたはがっこうにいられない」というばかり。ルーファスはいろいろかんがえます。

にじ

武田康男 監修・写真
小杉みのり 構成・文
岩崎書店

にじをみたことがある？にじはあめあがり、おともなくそらにあらわれる。あめがやんではれてきたら、たいうとはんたいがわのそらを見てごらん。そらには、あまぐもがのこしたあめのカーテン。このカーテンにたいうのひかりがさしこむとにじがあらわれるんだって。いろいろなにじをしょうかいするしゃしんえほんです。

低学年

パインさんのごちゃまぜかんばん

レオナード・ケスラー さく 小宮由 やく
大日本図書

パインさんは、かんばんやです。リトルタウンのおみせやとおり、どうろにあるかんばんは、パインさんがぜんぶつくりました。でも、かんばんはすこしずつふるくなり、文字がかすれてきました。リトルタウンの町ちょうさんは、パインさんに町じゅうのかんばんをつくりかえるようおねがいしました。さっそくしごとにとりかかるパインさんでしたが、たいへん！めがねをなくしてしまいます。

くよくよしてもしかたがない！

ワンダ・ガアグ 再話・絵 小宮由 訳
瑞雲舎

ひやくしやう
お百姓さんのフリッツルのしごとは、
はたけ 畑をたがやし、たねをまき、ざっそう 雑草をとること。
じぶん 自分のきつい外のしごとより、おくさんのいえ 家のなかのしごとのほうが、らくだと思っていたフリッツル。ある日、おくさんとしごとをとりかえた。

でも、やってみたらたいへん。一日かぎり、もとのしごとにもどった。

いったいなにがおこったのかな。

ぼくがぼくに変身する方法

やませたかゆき 作 はせがわはっち 絵
岩崎書店

小学4年のタクミは、フリーマーケットであこがれの『サンダー仮面』の変身ベルトを手に入れた。その帰り道、学年で一番体が大きいボスノとその子分に、ベルトを勝手につかまれわざと落とされたけど、あやまってもらえなかった。

くやしかったタクミは、サンダー仮面に変身して、ボスノたちをやっつけてやりたい！と思いつく。児童公園でベルトをまき変身ポーズをきめて、遊具のてっぺんから飛び上がったところ、本当にサンダー仮面になってしまった。

最初はわくわくしたが一度元にもどろうとした時には、もどり方がわからないことに気がつく。タクミは変身をとく方法を探しにいくことにした。

トイフードルのプリンセス？

トゥイ・T.サザーランド 作 相良倫子 訳
徳間書店

十歳の女の子、ロージーはきれい好きで、かわいいものが大好き。犬を飼うなら、おとなしくて、おしとやかでかわいい、プリンセスみたいな犬がほしいと思っていました。なぜなら、ロージーには大きくてうるさい、「野生のカバ」みたいな兄が四人もいるからです。

そんな兄たちと飼いたい犬種をめぐって勝負し、見事勝ったロージーは、ずっとあこがれていたトイフードルを飼えることになりました。トイフードルに会えるのを楽しみにしていたロージーでしたが、やってきたのは想像とはちがう、とってもやんちゃな子犬でした。

にぎやかな家族の、楽しいおはなしです。

高学年以上

世界の不思議は、きっと誰かの仕事でできている。

田丸雅智 著 フルカワマモル 絵
Gakken

クラス対抗の合唱コンクールの指揮者に、みんなの推薦で選ばれたアカリだったが、いざ練習がはじまると思いつ通りにいかず、絶望的な気持ちになっていた。

そんな時、買い物で頼まれて、いつもとは違う道をとったアカリは、気になる看板を見つける。《生き物ボイストレーニング教室》と書かれたそのビルにはいつていったのは、一羽のクラスだった。（「生き物ボイストレーナー」より）

世の中の現象には、それを仕事として働いている人がいる。

「影縫い師」「風飼育員」など、8種類のふしぎな仕事人がでてくるお話です。

かざばな お
風花、推してまいる！黒川裕子 作 タカハシノブユキ 絵
岩崎書店

ぼくはナリ、川越市に住む小学6年生。クラスで浮かないよう目立たず無難に過ごしてきたけど、ある日無理やり連れていかれた劇場で「劇団風花」の大衆演劇を観て、衝撃を受けた。

役者さんの着物がこすれて鳴る音、ドンと足を踏みならすたびに客席にまで伝わってくる振動、そして、舞台上での凛とした立ち居振る舞い。とりわけ、ぼくと同じ年くらいの役者「むらさき」の、ガラスみたいな透き通った声とするどい踊りが忘れられなかった。

ぼくは心に決めた。劇団風花、そして役者むらさきを推す。その日から、ぼくの心の中に新たな風が吹きはじめた。